

いわや
岩屋ダムの防災操作について(速報)
まぜがわ ひがしくつべ
(馬瀬川(東沓部地点)の水位を0.83m低減)

独立行政法人水資源機構が管理する岩屋ダムでは、低気圧や寒冷前線の通過により大気が不安定となり、岩屋ダム流域で時間最大雨量25.7ミリ(20日24時)、降り始め(20日12時)から21日16時までの総雨量は206.0ミリを記録しました。

この降雨により、岩屋ダム貯水池に流れ込む水の量(流入量)が、5月21日4時11分に洪水流量(毎秒300立方メートル)に達したため、防災操作を開始しました。21日10時17分には、流入量が最大(毎秒約514.39立方メートル)となり、この流入量に対し、毎秒約412立方メートルをダムに貯めて、ダム下流の河川水位の低減に努めました。

ダムの効果によりダム下流にある東沓部地点において最高水位を約0.83メートル低下させたと推定されます。

ダムへの流入量が最大となった時刻	同時刻におけるダムへの流入量	同時刻におけるダムの放流量	同時刻におけるダム貯留量
5月21日 10時17分	毎秒 514.39m ³	毎秒 102.54m ³	毎秒 411.85m ³

東沓部地点の河川水位最高水位となった時刻	同時刻における東沓部地点の河川水位	ダムがなかった場合の同地点同時刻の水位	ダムによる水位低減効果
5月21日 13時00分	4.05m	4.88m	0.83m

- ※ 東沓部地点：下呂市金山町東沓部乙鳥水管橋下流(岩屋ダムから約9.3km下流、飛騨川本川合流点から約7.5km上流の地点)
- ※ 防災操作とは、岩屋ダムに流れ込む馬瀬川の水が、大雨によって毎秒300立方メートル以上に増加したとき、その水の一部を一時的に貯め込むことで、岩屋ダムから下流へ流す水の量を減らし、岩屋ダム下流の馬瀬川の水位を低減させることです。
- ※ 今回の発表は速報値であり、今後の精査によって数値等が変わることがあります。

令和3年5月22日



みずしげんきこう
独立行政法人 水資源機構
いわや
岩屋ダム管理所

配布先

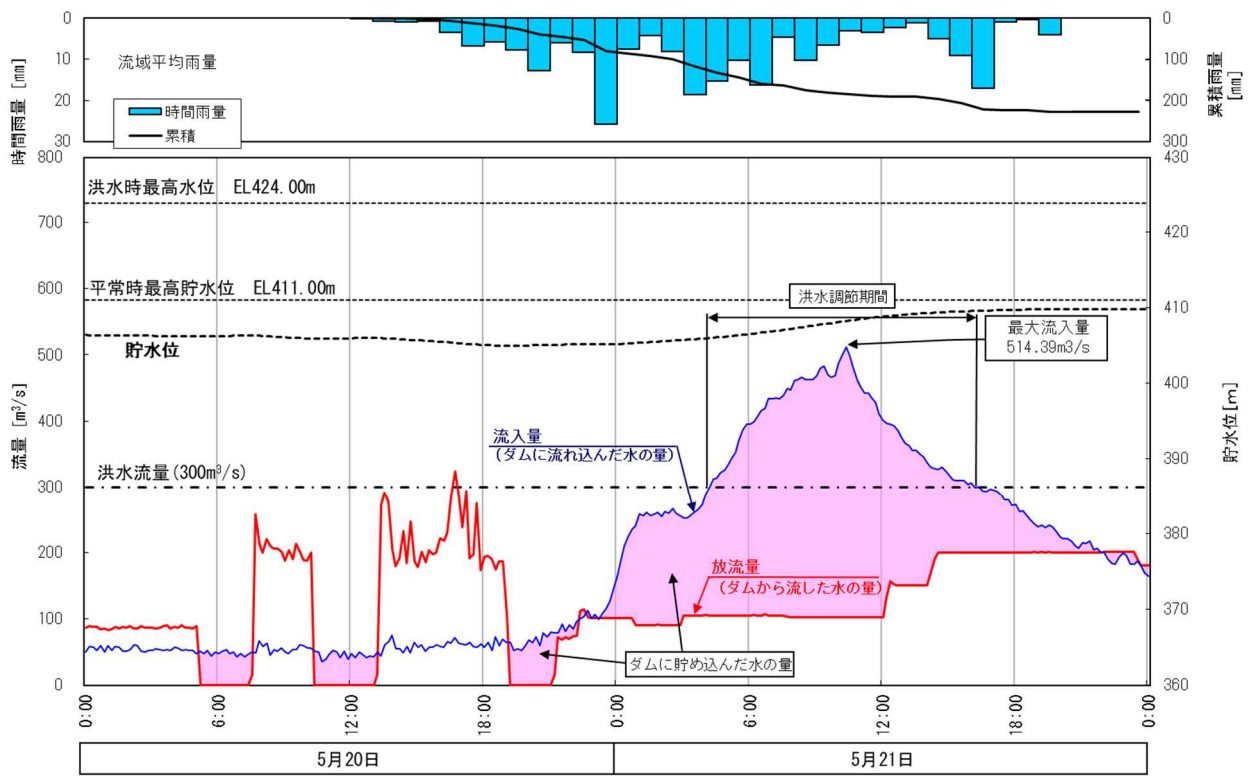
中日新聞社萩原通信局
岐阜新聞社下呂支局
読売新聞社下呂通信部

朝日新聞社高山支局
毎日新聞社岐阜支局高山通信部
シーシーエヌ株式会社

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 岩屋ダム管理所 所長代理 早川
電話：0576-35-2339

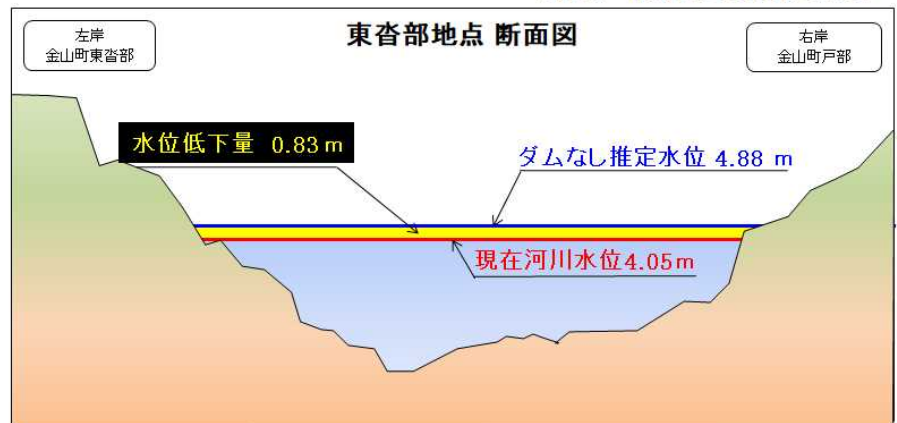
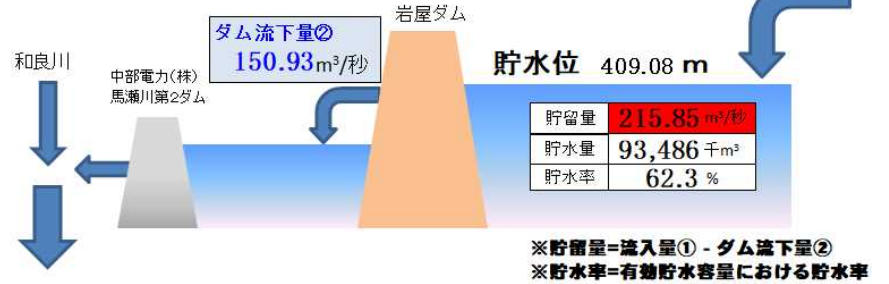
岩屋ダム防災操作図 [令和3年5月20日～5月21日 洪水]



岩屋ダムによる下流河川水位低下効果(速報)

使用データ時刻 令和3年5月21日 13時00分

【注意事項】
 この概略計算は、使用データ時刻における岩屋ダムの貯留量を、同時刻の東沓部地点の流量に加算し、水位を算定したものです。
 (実際には、岩屋ダムから東沓部地点まで洪水が流下する時間や、岩屋ダムから東沓部地点までの間に支川流入等があり、あくまでも参考に推定した値です。)



注) 正式な水位低下効果は、後日発表する洪水速報に記載されます。